

コラム
5

コインについて

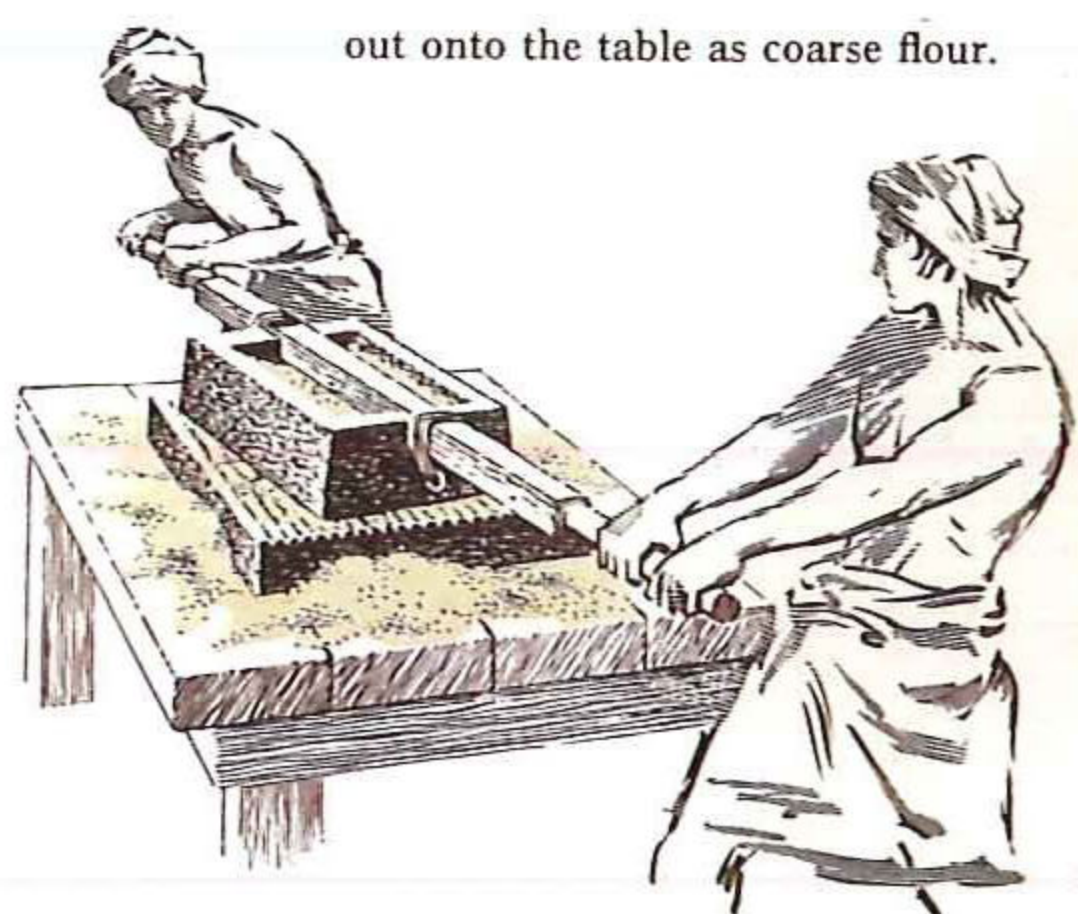
2010年度にG地区で出土した青銅のコインは、同地区のローマ時代遺構の年代を決定する上で大変重要である。摩耗が激しいものの、葉のある植物のリースが描かれていることから、ヘロデ大王の息子ヘロデ・アンティパス（紀元前4年～紀元後39年ころ）が鑄造させたコインであることがわかる。ヘロデ・アンティパスは、ガリラヤ地方の統治者としてセフォリスなどの都市建設活動を活発に行ったことで知られている（長谷川）。



ローマ時代のコイン、G地区

コラム
6

オリントス式石臼について



オリントス式石臼の使用復元図



G地区出土のオリントス式石臼

G地区で2009年度に見つかった石臼は「オリントス式石臼」と呼ばれるタイプの石臼の上臼部分である。この臼は、紀元前5世紀ごろにエーゲ海地方に登場し、ヘレニズム時代から南レヴァントでも普及し、ビザンツ時代まで使われた。テル・レヘシュ出土のものはローマ時代のものと思われる。上石の漏斗から挽く穀物を流し込んだ。底面には溝が設けられ挽かれた粉が外側に出てくる仕組みになっていた（長谷川）。